

平成26年度第5回小平市図書館協議会要録

- 1 日時 平成27年1月15日(木) 13時～15時
- 2 会場 中央図書館会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：11名 傍聴者：1名
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長、
小川西町図書館長、調査担当係長、サービス担当係長、
資料担当係長、仲町図書館長、大沼図書館長 計9名

4 配付資料 資料は省略させていただきます。

5 議事

(1) 報告事項

① 図書館運営状況について

- ・ 図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No.1)

(これまでの報告)

- | | | |
|--------|-----------------|---|
| 11月13日 | 大人のためのおはなし会 | 上宿図書館 |
| 11月29日 | 原田マハ講演会 | 中央図書館 |
| 12月4日 | おたのしみ会(全館) | (～17日) |
| 1月5日 | 第35回ふるさとの新聞元旦号展 | 中央図書館(～8日)
大沼図書館(10日～14日) 上宿図書館(17日～22日) |

(今後の予定)

- | | | |
|-------|---------------------|---------------------------------|
| 1月17日 | ブックリサイクル(雑誌) | 全館 |
| 1月21日 | 特別収集資料展示「チラシ&ポスター展」 | 中央図書館(～2月2日)
津田図書館(2月5日～19日) |
| 1月25日 | 「冬の家族一日図書館員」 | 全館 |
| 2月2日 | 長野県上田市立図書館視察 | |
| 2月21日 | ブックリサイクル(一般・児童) | 全館 |
| | 郷土写真展 | 全館(～3月12日) |
| 3月6日 | 図書館情報検索講座 | 中央図書館 |

- ・ 図書館情報検索講座は、初めての試みで、インターネット利用者端末が全館に配備されたことから、データベースの利用も含め、情報リテラシーを高めていく講座として企画した。
- ・ 平成26年度月別貸出状況について(資料No.2)
資料貸出数は12月末で、1,117,293点となり、昨年同時期より約3万6千点減少している。多摩六都においても同様に減少しており、原因の検証を行っているが具体的な

理由は見当たらない。新規登録者数は261人、貸出者数は10,794人の減少がみられている。このような傾向を踏まえ、来年度の開館時間の延長でどの程度の変化があるのか、費用対効果についても見極めていく必要があると考えている。

・ 広域利用について（資料No.3）

多摩六都の利用についても減少している。他市の在勤在学の方は増加している。

② 12月市議会定例会について

一般質問等では、図書館関係のものはなかった。

③ ふるさとの新聞元旦号展について

61紙に寄贈依頼をして、中央図書館は終了しているが、約50紙程度寄贈して頂いた。毎日届いているので、補充している。平成24年度は48紙、平成25年度は57紙を展示した。今後は、大沼図書館、上宿図書館で開催の予定である。

④ 第3次小平市子ども読書活動推進計画の素案及びパブリックコメントについて（資料No.4）

素案に対するパブリックコメントを1月5日から2月4日まで実施している。9月、11月の図書館協議会での意見を集約し作成した。変更したところは、アンケートの集計結果のまとめで、棒グラフを円グラフへの変更や、就学・未就学の分類を小学生・中学生・高校生に分けるなど、集計結果を細かく表示した。

パブリックコメント終了後の意見等の取り扱いについては、図書館協議会の予定がないため、会長と調整の上、各委員の方にも連絡をさせていただき、3月の図書館協議会でパブリックコメントの結果と策定した計画の報告をする予定である。

⑤ なかまちテラス開館に向けた準備状況について

開館の日程等が決定した。開館日は平成27年3月13日（金）で、この日は式典のみとなる。利用開始日は、平成27年3月14日（土）からとなる。図書館の休館日は毎週金曜日及び第3木曜日、第3木曜日は施設管理のための休館となる。開館時間は、9時から17時で、朝の開館時間は公民館に合わせている。火曜日、水曜日は20時までとなる。公民館の休館日は第3木曜日のみで、年末年始以外は開館となり、9時から22時までとなる。職員体制は、図書館は職員5名、嘱託職員6名となり、公民館は職員が1名と嘱託職員が2名になる。

行事については、3月13日（金）の夜、ルネこだいらの中ホールにおいて、なかまちテラスの設計者である妹島和世氏の開館記念講演会を開催する。時間は18時から20時までで、手話通訳をつけて行う。1月20日号の市報に掲載し往復はがきでの申込みとなり、結果は2月中旬に応募された方全員に発送する。定員は400名で、超えた場合は抽選となる。ポスター、チラシ、ホームページ等で案内する予定である。

また、開館記念行事として、絵本作家の原画展を開催する。「ねぎぼうずのあさたろう」

の作者・飯野和好氏の原画展を3月14日（土）から4月2日（木）まで2階の講座室で開催する。さらに、3月21日（土）14時から16時まで、原画作家の講演会「おっと痛快絵本の読みかたりの旅でいなかまちの宿」を開催する。「旅がらす」の装束に三度笠を使用しての講演であり、親子で参加し、絵本の読み聞かせをしながら絵本の楽しみ方などを話す予定である。

次にヴァイオリンとピアノのアンサンブルコンサートを予定している。演奏者はヴァイオリニストの上野真理さんで、ルネこだいらや小・中学校でコンサートを行うなど、市内でいろいろ活躍されている。3月22日（日）18時から20時まで地下1階のホールで行ない、定員は80名の予定である。2月20日号の市報に掲載する。

続いて、子ども科学講演会として、多摩六都科学館のスタッフの方に依頼し、「簡単オリジナル万華鏡をつくろう」を開催する。万華鏡づくりは人気のある講演会で多摩六都科学館の中でも人気のある出張講座と伺っている。

その他、にじバスのラッピングと小平駅南口の看板については、1月末までには完成する予定である。昨年11月に武蔵野美術大学と協働して、「あちこちなかまっち」というキャラクターを約150体作成した。そのキャラクターを看板やにじバスに活用することで進めている。

3月は13日が開館式典で夜が講演会、14日から利用開始で、三週続けて土・日曜日にイベントを行う。図書館資料は、ほとんどが新しいものになり、自動貸出機で貸出ができるようになる。

<報告事項についての質疑・応答>

委員：なかまちテラスにデジタルサイネージを設置するが、その中のコンテンツやソフト的部分はどこで検討されたのか。

事務局：デジタルサイネージは3か所に設置する。一つは北側入口で、太陽光パネルの発電量等の案内をしている。もう一つは、カフェラウンジで、小平市の情報発信を考えており、産業振興課でワークショップを行い、内容の検討をしていく予定である。三つ目はエントランスにあり、イベント、サークル活動の紹介に活用する予定である。

委員：図書館情報を発信していくとのことだが、単に日時、タイトルをお知らせするだけでは、よく分からないし、多くの人がそれを見て参加しようと思えるような内容になるとよいと思うので、その辺の工夫を十分にしていきたい。

事務局：ソフトの説明を業者から受けるので、その中で分かりやすいようにしていきたい。

委員：新聞に学校図書館司書の運用の仕方で、学校図書館に置く司書を各自治体の判断で柔軟に置けるというような記事を目にしたが、そのような事で小平市が変わってくるのか。

事務局：小平市では、特に動きはない。

委員：小平市の学校には司書教諭はいるのか。

事務局：司書教諭の方が兼任などの形でいる場合もあるが、教員の配置の問題なので何とも言えない。

委員：柔軟にできればよいが。

事務局：小平市ではそのような動きは特にない。

委員：司書教諭を置いてよいという記事だったと思うが。

会長：おそらく、学校の現場に学校司書を置きなさいという事が文部科学省で決まってきた。それに対してどう対応するかということで、「公共図書館も含めて支援をする。柔軟に対応したい」という記事ではなかったかと思うが。

ただ、小平市は他の市町村に比べて、学校図書館というものが進んでいる。司書教諭も、早く導入し、学校ボランティアも採用した、学校図書館と図書館がネットワークで繋がっているということもあり、進んでいる。小平市は対応ができていると思う。

委員：本来司書を置くべきだが、教員で司書の資格を持っている人が司書教諭として、図書館業務も兼任している。本来は司書を採用すべきだが、それには、予算措置を講じなければいけないので、その前段階で留まっている。司書教諭がいなかった時に比べ、司書教諭が入り改善はされたが、もっと良くなる余地はある。小平市の図書館でさえ専任の司書がない状況になっていることも良く考えなければいけない。

委員：第3次子ども読書活動推進計画について、前回に比べて、図など円グラフになり良くなった。「他の趣味や部活動」という表現があるが、公式な文書であればクラブ活動とした方がよいのではないか。

委員：小学校では「クラブ活動」、中学校では「部活動」となっている。

事務局：用語の整理については、気を付けていく。

委員：「学童クラブにおける図書の充実」の中の記載では、「定期的に図書館から本を借り、本を入れ替えるなど、行き届いた図書コーナーに努めます」と書かれているが、図書コーナーの充実に努めます等の表現の方が良いと思う。

事務局：これは最終案なので、内容的にはこの形でいきたい。細かい文言調整があれば、また後程調整したい。

委員：今回、提示されたものは、常体が敬体が変わって非常に親しみやすく、やわらかくて良い。前回提示されたものは何か意味があったのか。

事務局：前は、内容を審議するという事で文体は考慮していなかった。もちろん、最終的には調整する予定であった。

委員：目次をみると第6章で終わっているが、資料などの添付はないのか。

事務局：今回は、内容を見ていただくので添付資料はないが、製本時に資料は添付される。

委員：図書の貸出数が減少しているとのことだが、貸出数が増えるように考えていった方が良いのか。いろいろと分析しないと分からないため、それ程、気にしなくてもよいのではないかと思う。

事務局：分析はまだ分からない。市が行っている世論調査では、図書館は、市民の半分程度の方に利用されている。また、利用はしていないが、利用したいという方もいる。そういう方へのPRや図書館に来ていただく努力はまだできる。

委員：利用を増やす工夫をしていかないといけないと考えているのか。

事務局：市全体の中で使っている方がどのくらいいるのかを考えると、まだ使っただけの芽は大きくある。そのために、来年度は40周年記念行事の実施や、子ども読書推進計画で重

点を置いているティーンズコーナーについては充実させる。これまであまりアピールしてこなかった層、世代が図書館を使っただけのような工夫は行っていくべきだと思う。行事でも毎年同じようなものを繰り返すと同じような方が対象になるので、少し違った対象者向けの行事を実施するなど、考えていくことはできる。

委員：電車に乗ると、一車両に座っている方が全員スマートフォンを見ていた。このようなことでは読書にはなかなか向いていかないと思う。いろいろと考える事がいっぱい詰まっているのが本であり、子どもには本を薦める。大人の読書についても同じことが言える。何か工夫はないかと思う。

事務局：本日、午前中に図書館職員の全体研修会があり、機会があつて小布施町の初代館長を講師に招いた。スマートフォンの話では、スマートフォンに時間が取られ、活字離れがあるのであれば可能性として電子書籍をスマートフォンで読んでもらう。図書館という大きなカテゴリの中で考えていくと、電子書籍というのも、スマートフォンの問題に対応できる新しい媒体であるとのことであつた。図書館として新しいものをどこまで取り入れるかということも考える必要があるのかと思つたりもした。

委員：おはなし会を平日に参加できないから日曜日という話があるが、必ずしも日曜日に変更したからといって、参加に繋がるとは限らない。根本のところから改めていかないと来にくい状況は変わらない。

事務局：ある程度違う試みをしながら模索する必要もある。

委員：数が多いから良いとは、まったく思っていない。図書館側としては予算措置などがあるため、数が多くなると困るというような事はあると思うが。

事務局：どう理由づけをしていくか、原因を考えないと、次の利用に繋がらない。原因があれば、それを解消する。そうすれば他の方への利用に繋がる等、数字のことだけでなく、数字の裏側がどうなっているかも考えていく必要がある。

委員：小平市は学校の連携が進んでいるという話があつたが、各学校の生徒の学校図書館の利用率というものは、公表されて、図書館の協議資料として出るような形は無理なのか。

事務局：学校がどの程度調べ学習で、図書館資料を利用しているかは把握している。学校図書館システム自体が図書館とつながっているので、貸出数は出ているが、公表はしていない。

会長：学校に貸出したという統計を取っているのか、それとも学校に貸出した後、生徒さんが借りているという統計になっているのか。

事務局：学校図書館の中でも、電算化しているので、貸出記録は残り、その数字はある。

会長：その数字は増えているか。

事務局：その数字は増えている。学校図書館支援は定着している。

委員：それと合わせれば、トータルとして成功している部分が見えてくるのか。

事務局：学校に対する支援と、市民に対するサービスは別と考える。

委員：例えば、利用者の中で小・中学生が減っているとすれば、学校の中で借りる人が増えているという事も考えられるのかと思う。

事務局：学校図書館が充実すれば学校の中で借りる児童、生徒が増え、図書館利用の機会が少なくなることは確かにある。

- 会 長：学校によって図書館の利用の取り組みも違う。例えば小学校の場合、低学年の図書の授業は、概ね図書室で行われるが、上級生になると図書の時間が他の教科になってしまい、図書室に来るという授業は実際ないところが多い。学校によってだいぶ違って来る。
- 会 長：図書の授業では、「借りなさい」となるから低学年の子どもは借りていくが、上級生になると、自分が好きで中休みや昼休みの開いている時に行って借りるというようなことではないか。
- 委 員：文部科学省では学校図書館の活用については、かなり力を入れている。高学年は調べ学習で本を活用するがそのためにわざわざ地域の図書館に借りに行くという事はない。
- 会 長：学校図書館で子ども達が本を借りることは、学校図書館が充実してきているため、公共図書館に足を運ばなくてもよいとまでは言わないが、そういう傾向がある。
- 事務局：基本的にそういうことであれば、年齢別などいろいろな切り口で検証をしていく。また、多摩六都での会議もあり、これについても情報交換をしながら検討していく。
- 会 長：今回の統計は、前年度と比較して増減を見ているが、数年前までと比べるとどうか。
- 事務局：やはり減少傾向にある。
- 会 長：貸出冊数が5冊の時には、もっと貸してほしいと意見が多いことから増やした。一人10冊に増えたときと、増える前を比べたら、例えば10冊借りても2週間では読み切れないから、自分の読む量が分かって自分で制限しているかもしれない。開館時間も、長くといっても、実際の生活リズムを見てみると、ここが限度かというその辺との比較も必要と思う。
- 事務局：そういう面も見ながら、リクエスト件数も増えるなど、条件も変わってきていることから、今後検証していく。
- 委 員：上田市図書館が視察に来るということだが、何度もきているが、何を見学に来るのか。
- 事務局：前は社会教育委員の視察で、その委員の方の話を聞いて今回は図書館職員が図書館ネットワークを視察にくる。上田市はいろいろ分館があるが、ネットワークを機能させることが課題のようだ。
- 委 員：子どもの読書の関係で、このアンケートの結果を見ると朝読書で本が好きになったというのが9%程度あった。午前中、小・中連携の会議があって、小平市で朝読書、読書マラソンなど読書を習慣づけようという取り組みをして、そのアンケートを小学校6年生と中学校1年生対象に全市の小・中学校に実施した。その結果、朝読書、読書マラソンの取り組みで読書の習慣がつかまりましたかという質問の回答で、「そう思う」という回答が、小学校6年生が約25%、中学生は約28%、「ややそう思う」という回答が、小学校で約42%、中学校で約40%という結果がでた。昨年と比べてそれほど大きな差はないが、中学校では少し上がった。読書の習慣の割合としてそのまま使うわけにはいかないかもしれないが、好きになるところまではいかないが、本を読む習慣は少しついてきたという結果がでた。
- 委 員：今、小学校や中学校の国語の授業で、立って読ませるという事は行っているか。
- 委 員：授業ではある。
- 委 員：読書の時には、黙読ではなく、声を出して読ませるという事を何かの機会にするとよいと思う。

委員：議題以外で貸出期間の延長については、最大2週間の延長ですが、ウェブ操作を進める時に、末日から加算されるのではなく、貸出延長の操作日から加算になっているのが残念な気がする。

事務局：その様な意見もあるが、昨日借りて今日、貸出延長した場合、昨日借りた本が次の日にはほぼ4週間借りれるようになってしまう。当初の2週間という期間があつて無いようになってしまうので、延長の手続きをした日から2週間の延長にしている。

委員：10冊まとめて借りて、読み始めるととても無理だと思った時にいきなり延長したくなる。

事務局：はじめから約4週間というような形は避けたい。

会長：報告事項の質疑応答は終了します。

(2) 協議事項

なし。

(3) その他

事務局：東京都多摩地域公立図書館大会について、別紙パンフレットのとおり開催する。参加を希望する方は、事前の申し込みは不要なので、直接会場に足を運んでもらいたい。